



ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち

国立新美術館 2016.7.13～10.10

(9/18 記)

アカデミア美術館所蔵の絵画。粘りのある重厚なテンペラから、油彩により薄く色を重ねて繊細な描写が可能となったルネサンス期。人物だけでなく背景描写にも重きを置いたのがヴェネツィア派の特徴。カルパッチョの絵画には、トルコ風の背景が描かれ、ヴェネツィアの東方貿易の状況が見て取れる。

16世紀ヴェネツィアの肖像画は、それまでの証明写真的描写から脱して、上半身をクローズアップさせ、斜め横向きのポーズをとる。早描きのティントレットは、マニエリズム様式を取り入れている。

ヴェロネーゼ『レパントの海戦の寓意』動物の得意なバッサーノ『ノアの箱舟に入っていく動物たち』多くの宗教画を手掛けたティツィアーノ作品に注目。



受胎告知の祝日 3/25 に建国されたというヴェネツィア。多くの画が「受胎告知」のその時を描く中、これは受胎告知を行うために天使が舞い降りた瞬間。まだ告知されていない場面。70歳を過ぎたティツィアーノ・ヴェチェッリオの大胆な筆さばきは距離を置いて初めて形が見える。大胆・繊細な技法を巧みに使い分けたこの『受胎告知』は

サン・サルヴァドール聖堂から特別出品されている。